

ダニアレルギーに対するアレルゲン免疫療法について

アレルギー性鼻炎には、通年性アレルギー性鼻炎（ハウスダスト、ダニなど）と季節性アレルギー性鼻炎（花粉症）に分けられます。花粉症は散布される季節に症状がひどくなりますが、ダニは年中いるため症状も年間を通して認めます。

通年性のくしゃみ、鼻の痒み、透明な鼻水、鼻づまりといった典型的な症状があり、またプリックテストなどの皮膚テストや、特異的 IgE 検査などの血液検査が陽性的場合に、ダニが原因のアレルギー性鼻炎が疑われます。

ダニによるアレルギー性鼻炎と診断された場合は、まずダニの除去と回避（掃除などの環境整備）や、抗ヒスタミン薬やステロイドといった内服・点鼻薬で症状を抑えます。アレルゲン免疫療法は、これら基本的な治療を行ったうえで、症状が良くならない、もしくは薬が年中必要で減らせないときに、下記の注意事項・不利益を上回る効果が期待される場合に併用される特殊な治療です。

アレルゲン免疫療法には、皮下免疫療法（SCIT）という皮下に注射する薬と、舌下免疫療法（SLIT）という舌の下に入れる錠剤もしくは液体の薬の 2 つがありますが、当科では舌下免疫療法（SLIT）を行っています。SCIT、SLIT の両者に大きな効果の違いはありません。ダニに対する SLIT は、2 年間の治療で約 70% に効果を認めたという報告があります。

アレルゲン免疫療法は特殊な治療であり、特に以下の点に対して注意が必要です。

- ・ 始めてすぐに効果が実感できる治療ではありません。長期的な治療になるため、3～5 年間、毎日薬を飲む必要があります。
- ・ 現在、小児ダニアレルギーに対しては舌下投与方法しかありません。錠剤は容易に唾液で溶けますが、舌の下で最低 1 分間は飲み込まずに保つ必要があります、それが可能な小児に限られます。
- ・ 最初は口腔内の腫脹やそう痒感などの副作用が起こりやすく、また基本的に全身の副作用は稀とされていますが、アナフィラキシーといった強い副作用がでる恐れがあります。
- ・ 治療中は定期的に通院(2 から 4 週間に 1 回)していただく必要があります。
- ・ 通年性アレルギー性鼻炎であっても、ダニ以外のアレルギーが原因の場合は無効です。
- ・ すべての患者さんに効果が期待できるわけではありません。
- ・ 以下の方は、治療ができない場合があります。β 遮断薬を使用中の方。重症またはコントロール不良の気管支喘息の方。全身性ステロイド薬の連用や抗がん剤、免疫抑制剤を使用している方。妊娠あるいは授乳している方。自己免疫性疾患にかかっている方。感染症にかかっている方。